

整備事業

I 産地競争力の強化を目的とする取組用

(山口県 平成28年度)

市町村名	事業実施主体名	メニュー① (対象作物・畜種等名)①	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①						成果目標の具体的な実績①	メニュー② (対象作物・畜種等名)②	成果目標の具体的な内容②	事業実施後の状況②						成果目標の具体的な実績②	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考
				計画時(平成25年)	1年後(平成26年)	2年後(平成27年)	3年後(平成28年)	目標値(平成28年)	達成率				計画時(平成25年)	1年後(平成26年)	2年後(平成27年)	3年後(平成28年)	目標値(平成28年)	達成率				交付金	都道府県費	市町村費	その他				
長門市	長門大津農業協同組合	土地利用型作物(水稲、飼料用米)	小売用及び原料用米の契約栽培(以下結びつき米)の割合を32ポイント増加	41.5%	44.0%	54.9%	56.0%	73.5%	45.3%	穀類乾燥調製貯蔵施設再編利用(米)	再編後の利用率が100%	70.7%	67.5%	59.2%	59.9%	100%	-36.9%	乾燥調製施設 ・乾燥機(10t×5台、5t×4台) ・稲摺機(10インチ1台、5インチ1台) ・既存設備と合わせた日最大荷受け量 75.9t/日	212,760,000	98,500,000	0	0	114,260,000	平成27年2月27日	再編により、出荷体制の効率化が進み、品質向上にもつながった。また、飼料用米の生産量(H28)は、事業実施前(H25)の2倍以上となり、大きく伸びた。このため、契約栽培数量、RC利用量は再編前より増加した。しかし、契約栽培割合、利用率とも目標値には届かなかった。未達の主な要因は、 ・主食用米の米価下落により相対的に利用料金の負担感が増大したこと等により、当初RC利用を希望していた認定農業者がRC利用を取りやめたこと ・RC利用予定だった生産の主力となる法人の設立が遅れ、農地集積が進まず、RC利用予定生産者の一部が引き続き認定農業者等へ乾燥を委託したこと ・今後は、買取販売の実施や新たな結びつき米として、最近需要の高まってきている、これまでくず米として処理していた1.75~1.85の米を中米として販売する等の取組を強化する。中米は農家手取りの向上へ繋がるため、RC利用のメリットとしてPRすることでRC利用量の増加を図る。 加えて、仙崎地区に設立した新法人や新たな担い手への農地集積、RC利用推進により利用量の更なる増加を進める。 さらに、飼料用米についても、地元の養鶏農協を中心とした需要量が相当量見込めるため、さらなる生産拡大を進め、仕上げ乾燥対応等受入形態の多様化によりRC未利用者への利用推進を図る。 以上の対策を進めることで、RCの利用量を増加させ、中米利用、新法人等の生産拡大等で契約栽培割合の増加を図る。	成果目標①の契約栽培は、計画時点と比較して数量、割合とも伸びたものの、目標を達成できていない。 目標②の利用率は、再編により利用率は計画時より増加したものの、主食用米が想定した処理量を達成できておらず、目標を達成できていない。 目標達成には、これまで以上にRC利用量増加対策の強化が必要であり、継続的な進行管理により、指導強化していく。 主食用米については、 ・農家の所得向上につながる中米等の結びつき米を推進アイテムとして利用量及び契約率の向上を図ること ・県戦略協議会が販路開拓や集荷拡大等の取組を支援するため新設した事業を積極的に活用し、利用率向上につながる結びつき米の取組強化を進めることについて重点指導していく。 飼料用米については、利用量増加に大きく寄与する受入形態の多様化及び生産拡大の取組強化を継続的に指導する。 併せて、需要量確保のための生産拡大、技術指導の強化、多収品種の選定等の単収向上対策を実施する。			

(山口県 平成28年度)

市町村名	事業実施主体名	メニュー① (対象作物・畜種等名)①	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況①								達成率	成果目標の具体的な実績①	メニュー② (対象作物・畜種等名)②	成果目標の具体的な内容②	事業実施後の状況②								達成率	成果目標の具体的な実績②	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力)	事業費 (円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考
				計画時 (平成20～22年)	1年後 (平成24年)	2年後 (平成25年)	3年後 (平成26年)	4年後 (平成27年)	5年後 (平成28年)	目標値 (平成28年)	1年後 (平成24年)					2年後 (平成25年)	3年後 (平成26年)	4年後 (平成27年)	5年後 (平成28年)	目標値 (平成28年)	交付金	都道府県費	市町村費					その他							
				58.8%	-	-	76.8%	82.8%	81.7%	61.0%	29.5h					10.3h	5.4h	5.2h	5.2h	8.1h	113.5%	829,589,250	395,042,000					0	0	434,547,250					
萩市	株式会社萩牧場	畜産生産基盤育成強化 肉用牛	肥育における出荷生産物に占めるA4、A5等級の割合を2.2ポイント増加	(JAあぶらんど萩管内の平均値) (A4、A5等級頭数 597頭/総出荷頭数 1,015頭)	-	-	76.8%	82.8%	81.7%	61.0%	1040.9%	肥育における出荷生産物に占めるA4、A5等級の割合を22.9ポイント増加できた。	畜産生産基盤育成強化 肉用牛	肥育牛1頭当たりの労働時間を72.5%削減	(阿武・萩地区内の大型肉用牛の平均値) (総労働時間5,837h/常時飼養頭数197.9頭)	萩牧場における(総労働時間8,848h/常時飼養平均頭数855頭)	萩牧場における(総労働時間8,497h/常時飼養平均頭数1,588頭)	萩牧場における(総労働時間8,410h/常時飼養平均頭数1,611頭)	萩牧場における(総労働時間8,410h/常時飼養平均頭数1,610頭)	萩牧場における(総労働時間13,716h/常時飼養平均頭数1,697頭)	113.5%	肥育牛1頭当たりの労働時間を82.4%削減できた。	家畜飼養管理施設 肥育牛舎・鉄骨造平屋・14,857.83㎡・1棟、 たい肥舎・鉄骨造平屋・1,590.40㎡・1棟、 強制発酵装置1基、 飼料庫・鉄骨造平屋・997.50㎡・1棟、 用水設備一式、建物設計監理、給餌用機械1基	829,589,250	395,042,000	0	0	434,547,250	平成25年3月25日	現時点で目標を達成している。引き続き現在の水準を維持していきたい。しかし、素牛価格高騰が続き、素牛の導入が計画どおりにできず、出荷頭数と常時飼養頭数は未達成であることから、今後とも円滑な素牛導入を実施していく。	成果目標①及び②ともに達成できなかった。しかし、出荷頭数と常時飼養頭数の目標は達成できていないことから、安定的な素牛導入を図るよう事業主体を指導していく。				

都道府県平均達成率	290.7%	総合所見	長門市の取組については、目標未達成となっていることから、契約栽培割合、利用率の向上、萩市の取組については、目標は達成しているが、未達成となっている出荷頭数と常時飼養頭数の目標達成に向け、事業実施主体を引き続き指導していく。
-----------	--------	------	---